

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 1 回相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会		
事務局 (担当課)	都市建設局まちづくり計画部リニアまちづくり課 電話 042-707-7047 (直通)		
開催日時	平成 26 年 8 月 22 日 (金) 19 時 20 分～20 時 45 分		
開催場所	相模原市役所 第 2 別館 3 階第 3 委員会室		
出席者	委員等	25 名 (別紙のとおり)	
	事務局	4 名 (都市建設局長、広域交流拠点推進担当部長、リニアまちづくり課長、相模原駅周辺まちづくり課長)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会規則 2 会長・副会長の選出 3 会長・副会長あいさつ 4 相模原市広域交流拠点整備計画の諮問 5 議事 (1) 広域交流拠点基本計画の概要について (2) 検討項目について (3) 検討体制について (4) 検討スケジュールについて (5) その他 6 その他		

## 審 議 経 過

### 1 相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会規則

相模原市広域交流拠点整備計画検討委員会規則に基づき、事務局より設置目的等について説明を行った。

### 2 会長・副会長の選出

規則第5条の規定に基づき、互選により会長に日本大学教授の岸井委員、副会長に明治大学の市川委員が選出された。

### 3 会長・副会長あいさつ

### 4 相模原市広域交流拠点整備計画の諮問

### 5 議事

主な内容は次のとおり。(□は会長、■は副会長、○は委員、●は事務局の発言)

#### (1) 広域交流拠点基本計画の概要、整備計画検討項目、検討体制について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。

- 基本計画の概要、整備計画の検討項目及び検討体制についてご意見があれば伺いたい。
- 整備計画では具体的にどのような検討内容をイメージしているのか。
- 今後の都市計画決定に向けたマスタープランとして本整備計画を位置付けている。基本計画における土地利用方針等の検討項目を深掘りした整備方針を示すとともに、道路形態や街区ごとの導入機能などより具体的な計画案を策定する考えである。
- 都市計画決定時にはどの程度の検討事項を決めなければならないのかご説明いただきたい。
- 都市計画道路は車線数、幅員、歩行者空間等の道路構成について検討する。本委員会においても道路機能や将来的なまちづくりにおける用途地域等の方向性についての議論をお願いしたい。
- 基本計画における方針図を具体化し、都市計画決定までには1/2500縮尺の図を描かなければならない。そのためには、整備計画において道路機能や規模等を具体化させる必要がある。土地利用についても概ねの方向性を打ち出し道路ネットワークとのバランスを図っていく。
- 広域交流拠点としての橋本・相模原の両拠点の連携イメージが曖昧である。また、二眼レフの都市構造（橋本・相模原両駅周辺地区の各都市構造）としての連携方策はどういったものか。検討項目の相模原駅周辺地区欄において橋本駅周辺地区との連携強化についての項目がない。

- 両拠点の連携については、基本計画において方向性は打ち出している。両地区の都市機能を分担させることによりそれぞれの特色を生かした拠点を形成し、また拠点間をつなぐ道路を整備することにより両拠点の連携を図る考えである。土地利用に関する役割分担や連携のための道路計画等については、基本計画における方向性を踏まえながら整備内容を検討していく。
- 基本計画の方向性を前提としたまちづくりを検討し、本委員会等で議論を重ねながら両地区の整合性を図っていくと理解する。
- 両地区における機能分担は、お互いを補完する場合と機能の取り合いになる場合がある。広域交流拠点としての必要機能をどちらに持たせるかは重要な検討事項であり、整備計画においても機能分担に関する調整を行うことを前提に検討を進めるべき。

二眼レフの都市構造は、日本においては例がないので重要なテーマであると認識している。橋本・相模原の双方において検討を進める中で整合を図っていけばいい。
- 橋本・相模原両地区間にある工業用地について、将来的な社会情勢、企業の動向により売却された場合を想定すると、すべてマンション用地として使われるのではないかと懸念している。地区間の企業等の意向を把握したうえで、土地利用転換の機会が出てくるのであれば、そこを中心とした都市構造としてその両端に2つの拠点が形成されるという考えもあるのではないか。

二眼レフの都市構造にも様々な形が考えられるので、長期的な視点で都市構造を検討するためにも企業の動向は把握しておいた方がいい。
- 橋本地区の相原高校用地、相模原地区の相模総合補給廠の一部返還用地を種地としてまちづくりを検討しているが、周辺の動向も視野に入れるべきであると理解した。本委員会において情報共有を行いながらまちづくりの方向性を見極めていくこととする。
- 隣接する駅が相互に発展していく都市という観点では機能分担も重要だが、長期的なまちづくりを見据えた検討においては不確定要素というものは当然あり、そういったものを前提として検討せざるを得ない。

また、リニア開業という大きな契機を捉えるだけでなく、歩行者や自転車のネットワークも将来の都市空間形成においては重要な要素である。現時点においては不確定要素を前提とした検討を行っているという共通認識を持てばいい。
- リニアの影響もどこまで及ぶのかわからない状況でもある。今後の経済情勢等を敏感に把握しながら、両地区を中心に議論を重ねるとともに広域的な視点を持って検討を行うべきである。
- 検討体制における各組織の位置付けを教えてほしい。すでに動いている相模

原駅周辺まちづくり推進連絡協議会での議論は把握しているが、検討内容としては身近な議論を展開している。そういった地元の声も検討委員会に上げるべきなのか。どの組織で何を検討するのかを明確にしてほしい。

- 検討体制についてのご意見だが、事務局より提案のあった小委員会の設置についてご理解いただけるか。両地区の小委員会はより具体的な検討を深掘りするためのものであり、本委員会は両地区の整合を図るものとして進めていきたい。

(各委員より小委員会設置に関して賛同の声あり。)

小委員会メンバーは、本委員会と概ね同じメンバーで構成しているので議論がまとまらないことはないと考え。構成案について事務局から提示いただき、説明をお願いしたい。

(事務局より小委員会構成案を配布)

- 学識経験者については専門性を考慮して両地区に振り分けている。市民委員として、公募市民については希望する地区に設定、両地区のまちづくり組織からは各代表を選出している。地元関係団体としては両地区のまちづくり協議会会長と3団体(観光協会、商工会議所、自治会連合会)に参画してもらい、公共交通事業者、関係行政機関とあわせた委員構成としている。
- 関係機関及び学識経験者も両地区に参画するので、議論の方向性は担保できると認識している。小委員会構成案に関して了承いただいたと理解し、各委員への指名及び第1回小委員会の通知をさせていただく。小委員会の委員長については、小委員会の中で選出することとする。

## (2) 広域交流拠点整備計画検討スケジュール(案)について

事務局から資料説明後、質疑応答を行った。

- 平成26年度末には整備計画の中間報告としてとりまとめを行う。本委員会開催の間に小委員会を開催し両地区における検討を積み上げ、本委員会において全体調整を行う。検討スケジュール及びこれまでの議題についてご意見を伺いたい。
- 検討体制にある両地区のまちづくり組織は、図を見る限り他の委員会と連携していない。小委員会において各代表が参画しているが、地元意見はどこまで反映されるのか。相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会の位置付けを明確化してほしい。
- 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会は相模原駅周辺地区を対象としたまちづくり組織であり、対象エリア内に属する自治会、商店会等から構成されている。協議会においては、相模総合補給廠だけではなくそれ以外の地区についても広く検討している一方、広域交流拠点においては、橋本駅周辺、相模原

駅周辺として駅周辺地区のエリアを拠点として位置付けている。

- ゾーン別のまちづくりに関しては、小委員会と協議会とで整合をとるべきではないか。
- 整備計画で対象としているエリアは、これまで協議会で検討しているエリアの一部であることから、「ゾーン」のイメージにずれがあるかもしれない。これまでの検討エリアと整合がとれるとは限らないので、協議会において積み重ねてきた検討事項は、小委員会で吸い上げて反映させることが必要である。
- これからの委員会においてすり合わせていけばいい。ただ、位置づけは明確にすべき。
- 事務局で地元意見を整理し、小委員会へ上げることが必要である。
- 基本計画の中では地下の利用について触れられていない。橋本と相模原の連携のために、リニア、小田急線の延伸計画、JR 横浜線の連続立体交差化等を踏まえると、地下での両地区間の連携も考えられるのではないか。
- 検討すべき課題を拾い上げて両地区の小委員会で議論し、本委員会において全体調整を図ることとしたい。地下利用については、基本計画検討委員会においても議論されたが、様々な課題があることから基本計画には反映させないこととなった。事務局からの説明をお願いしたい。
- 橋本と相模原の連携については、基本計画検討委員会においても地下空間の活用が必要ではないかというご意見をいただいた。橋本と相模原間の約 3km の距離における地下空間での安全面等の課題を検討した結果、地下街の形成は厳しいという意見から基本計画へは反映しないこととした。小委員会においてもそういったご意見があれば議論を継続したいと思う。
- 橋本と相模原は違う性質を持った拠点になる。理想形としては、両拠点が成立し相互に連携し合うことであるが、約 70 万人の人口規模と首都圏南西部の都市ということ考えると、「まちづくり」だけではなく「都市構造」としての意味合いが出てくる。具体的には、各々の都市機能によるところが大きく、本委員会はその議論の場であると認識している。

地元のまちづくり検討も当然必要であるが、都市機能として許容すべき事項を検討することが重要。拠点間の連携において重要なのは交通体系であり、連携方策を検討しながら両拠点を理想形に近づけるための検討が必要である。地元のまちづくり検討と並行して、広い視点での都市の可能性を検討すべき。
- 社会情勢を踏まえた長期的視点での都市機能等の検討ということで理解した。
- 関係機関から何かご意見があれば伺いたい。特にスケジュールについては、関係機関との調整が重要であるので、今後検討を進める中でご意見をいただきたい。また、具体的な個別調整等における必要な議論については先行するなど、

優先事項を見極めながら議論を深めていきたい。

- 小委員会も傍聴できるのか。
- 可能である。
- すべての委員会において傍聴可能なのか。個人的情報等の場合は非公開とすることもあるが。
- 検討内容によっては非公開とすることもある。
- 本日は第1回目ということで基本計画の概要と今後の検討内容の確認であったが、これからは両地区の小委員会において検討を重ね、地区の方向性に矛盾がないか、両地区が成立するのか、両地区間のエリアを検討するのか等様々な議論が展開されると想定される。両拠点の相乗効果により市全体が発展するシナリオを描きつつ、タイトなスケジュールの中でも柔軟な発想のもと検討を進めていきたい。本日は確認事項における議論であったが、今後はより具体的な深い議論をお願いしたい。

以 上

## 第1回 広域交流拠点整備計画検討委員会委員名簿

No.	区 分	氏名 役職等	出欠
1	学識 経験者	飯島 泰裕 青山学院大学社会情報学部社会情報学科教授	出席
2		市川 宏雄 明治大学専門職大学院院長	出席
3		岸井 隆幸 日本大学理工学部土木工学科教授	出席
4		中林 一樹 明治大学大学院政治経済学研究科特任教授	欠席
5		屋井 鉄雄 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	出席
6	市住民	五十嵐 淳 公募市民	出席
7		鈴木 典子 公募市民	出席
8		中山 晃子 公募市民	出席
9		大用 尚 橋本駅周辺まちづくり推進会議構成員	出席
10		草野 寛 橋本駅周辺まちづくり推進会議構成員	出席
11		横山 房男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員	出席
12		山田 昇一 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会構成員	出席
13	関係団体	原 正弘 橋本駅周辺まちづくり推進会議会長	出席
14		中里 和男 相模原駅周辺まちづくり推進連絡協議会会長	出席
15		阿部 健 相模原市観光協会専務理事	欠席
16		座間 進 相模原商工会議所専務理事	出席
17		田所 昌訓 相模原市自治会連合会会長	出席
18	公共交通 事業者	山口 拓 東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画部長	出席
19		二村 亨 東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部企画推進部担当部長	出席
20		黒田 聡 小田急電鉄株式会社交通企画部長	出席
21		高山 恒明 京王電鉄株式会社鉄道事業本部計画管理部長	出席
22		三木 健明 神奈川中央交通株式会社運輸計画部長	出席
23	関係行政 機関	近藤 雅弘 国土交通省関東地方整備局企画部広域計画課長	出席
24		三宅 亮 国土交通省関東運輸局企画観光部交通企画課長	欠席
25		磯崎 孝喜 神奈川県産業労働局産業・観光部産業立地課長	出席
26		寶珠山 正和 神奈川県県土整備局都市部交通企画課長	出席
27		樋口 雅浩 神奈川県警察本部交通部交通規制課都市交通対策室副室長	欠席
28		重江 晶子 神奈川県相模原警察署交通第一課長	出席
29		太田 剛 神奈川県相模原北警察署交通課長	出席